

優秀賞 兵庫県 真田様（中学生 男性）

現在、中学１年生である僕にとって「年金」との関わりといえば、祖父母が受け取っているということと、時々乗る市営バスの中で流されている「国民年金は、自分のため、家族のため、２０歳から６０歳まで保険料を納付しましょう」というアナウンスを何となく記憶していることぐらいだ。正直に言って、年金のことはよくわかっていないし、これまであまり関心もなかった。しかし、市営バスの中で繰り返し流されている「２０歳から６０歳まで保険料を納付しましょう」というフレーズだけは、以前からなぜか気にかかっていた。

僕には、６歳違いで現在大学２回生の兄がいる。その兄は、来年２月に２０歳になる。最近、父や母がよく兄に対して、「来年になったら二十歳やね。成人になるんやからもっとしっかりせなあかんよ」というようなことを言っており、それを聞いて僕は「お兄ちゃんも来年で二十歳になるんや。ということは、あのバスの中でよく聞く『２０歳から６０歳まで保険料を納付しましょう』に該当するんや」と気が付いた。そこで兄に「来年二十歳になったら、お兄ちゃんも国民年金の保険料、払わなあかんみたいやで」と言ってみた。兄は「ふーん、そうなんや」と言うだけで、あまり関心は無さそうだった。

そこで、僕は、兄の代わりにというか、夏休みの課題として年金制度について調べてみようという気になった。まず、気になったのが、年金の仕組みと納めないといけない保険料はいくらなのかということだ。日本年金機構のホームページを見ると、公的年金が果たす役割がとてもわかりやすく説明されていた。

肝心の２０歳になる兄が支払わなければならない保険料について調べてみると、１か月あたり１４,９８０円であることがわかった。今、兄は週２回、ファミリーレストランでアルバイトをしているが、そのアルバイト代は月に約２万円だそうだ。だから、もし兄が自分で保険料を納めるとすると、この保険料はとても高額であると思う。アルバイト代が国民年金の保険料だけで消えていくのは、あまりにも寂しい気がする。そこで、もう少し詳しく調べてみると「学生納付特例制度」という制度があることがわかった。所得が少なく保険料を納めることが困難な２０歳以上の学生が利用できる制度だ。この制度を利用すれば、アルバイト代の少ない兄も助かるはずなので、ぜひ教えてあげようと思った。

それにしても、兄の世代の大学生の誰もが、たとえ学生や無職であっても、20 歳以上になれば必ず国民年金に加入して保険料を納めなければならないことを知っているのだろうかという疑問に思った。僕自身も今回いろいろ調べてみるまで、市営バスのアナウンスがなんとなく記憶に残っていても、20 歳以上になれば必ず国民年金に加入しなければならないということとは結びついていなかった。僕たち中学生世代では、年金は自分の祖父母が受け取っているということを知っているくらいで、どういう仕組みでこの制度が成り立っているのか、良く理解できていない人が多いと思う。大学生の兄の世代であってもその状況はあまり変わらないように思う。強制加入の制度なのに、多くの人がよく理解していないというのは、とても問題だと思う。年金の仕組みや必要性、さらに自分が納める保険料がどのように使われるのかということが理解できていないと少ないアルバイト代の中から支払う気には、なかなかないと思う。

僕の場合は、今回調べたことがきっかけで、年金制度は、自分が納めた保険料がそのまま積み立てられて、将来、自分が受け取るのではなく、現在の現役世代の納める保険料で現在の高齢者の年金を賄うという仕組みであり、「世代と世代の支え合い」が大切な考え方であること、また、将来、年をとって働けなくなったときだけでなく、若くても病気やけがで働けなくなったときのことを考えると、年金という制度がとても重要な社会的な仕組みであることも理解できた。

公的年金について「払った分が戻ってこないのだから、払っても損するだけ」という人もいるらしいが、仕組みや必要性が理解できれば、損得で判断することではないと考えるようになると思う。そのためにも、僕や兄のような、これから年金制度に関わっていく若い世代が、知らず知らずのうちに年金の必要性を理解できるような PR 方法を考えるべきだ。例えば、市営バスのアナウンスのように日常生活の中で何度も繰り返し、見たり、聞いたりすることができるような工夫をして、「年金制度がなぜか気になる」という状態を作りだし、若い時から年金に関心を持つことで、これからの年金制度を支えて、超高齢化社会を安心して暮らしていけるようにすることが必要だと思った。このこともぜひ兄に教えて、夏休みの学習の成果として少し自慢しようと思う。